

# 高性能のアンテナを作ろう

## 宇田 新太郎

1896 (明治 29) 年6月1日—1976 (昭和 51) 年8月18日



アンテナ・超短波の研究者

八木・宇田アンテナを共同開発

「魚津の三太郎」の一人

## 大学で研究したい

下新川郡舟見村 (現入善町) に生まれ、小学校3年のときに魚津に移りました。県立魚津中学校 (現県立魚津

高校) から広島高等師範学校 (現広島大学) に進み、中学校で教師をしました。その後、電気通信の分野で進んだ研究をしていた東北帝国大学 (現東北大学) 電気工学科に入学しました。

## 金属棒からヒント得て

卒業後も大学で研究を続けた新太郎は、八木秀次教授の研究室で講師として超短波\*の研究をしていたとき、実験装置の近くに金属棒が置いてあると電波が強くなる現象に気づきました。新太郎は、金属棒が電波を導く導波器になることを発見し、「八木・宇田アンテナ」として実用化しました。これが現在、世界中で使

われているテレビアンテナです。

新太郎の1歳年上で魚津中学校を卒業して農学者になった盛永俊太郎は、遺伝の仕組みを研究し稲の新しい品種を作るための科学的基礎を確立しました。新太郎、俊太郎、それにテレビの研究で知られる川原田政太郎 (→64ページ) はいずれも、明治時代の後半に魚津で学んだ世界的な科学者です。魚津市民は「魚津の三太郎」と呼び、誇りにしています。

## 夢や志をかなえたポイント

- 好きなことを徹底的に学ぶ
- 小さな変化にも目を向ける
- 発見を便利な暮らしに役立てる



八木・宇田アンテナ。1930 (昭和5) 年のベルギー万博に出品されました。(東北大学電気通信研究所提供)

\*超短波【ちょうたんぱ】

地上アナログテレビ放送・FM放送・アマチュア無線・航空無線などに使われている電波です。